熊本に投下された紙の爆弾「伝単」

1 紙の爆弾「伝単」とは

- □伝単 (でんたん) とは「戦時において敵国の民間人、 兵士の戦意喪失を目的として配布する宣伝謀略用の 印刷物 (ビラ)。その語源は物事を伝える紙片とい う意味の中国語」である。情報戦でのプロパガンダ リーフレットと言える。
- リーフレットと言える。 □「第二次世界大戦では、各国とも数千万枚とも数億 枚ともいわれる伝単を印刷し、飛行機を用いてアメ に散布」している。「日本上空の制空権を握ったアメ リカ軍は、連日B-25爆撃機等で、空襲の目標 となる都市に大量の「空襲予告」宣伝ビラを散布 した。これを拾った者は憲兵や警察へ届けることに なっていたが、「確実な予告ビラであり、リアリティに富み、日本の民衆心理に効果をあげた」という。

写真1 日本本土に落とされた「伝単・日本国民に告ぐ 第1回目投下資料」 高谷和生所蔵



県内では、これまでに太平洋戦争期において、<mark>熊本市3種と天草市2種での「伝単5種類</mark>」が確認されている。以下項目毎に概要をまとめる。また、公開されている資料については、関係機関了解のもと、概要を紹介する。 但し、1938(昭和13)年5月20日、国民党軍爆

但し、1938 (昭和13) 年5月20日、国民党軍爆撃機による「伝単投下」日本本土初爆撃の所謂「人道爆撃」については、現在調査中であり、次回以降で別項としてまとめる。

(1) 龍田地区住民による証言

龍田町での戦争遺跡調査のおり、地元住民より「終戦間際の日中に、**双胴機体の小型飛行機**(沖縄移駐の陸軍機のP38機か)複数機から、熊本市東区「吉原橋」上流において、多量のビラが投下された」。その様子を目撃したが紙面は拾っていないので、内容は見ていない。

(2) 上田穣一氏が複写し保管していた資料

第2回熊本大空襲(8月10日)で投下された伝単を、故上田穣一氏が複写し保管していたが、現在は所在不明である。平和憲法を活かす会刊行の『戦後75年 熊本空襲の実相を後世へ』内に「日本国民に告ぐ」伝単の複写資料が掲載されている。※写真3が同型品

(3) 髙木第四郎(九州新聞社社長)氏の収集資料

1945 (昭和20) 年8月6・7日、熊本市内に 投下された「伝単二種(137 - J-1・152-J-1)」が、熊日新聞博物館に 展示されている。収集場所は不明である。

(4) ○崎○吉氏の収集資料

熊本市迎町一丁目居住の○崎氏が、過日で「ポツダム宣言伝単(152-J-1)」 を持ち込まれている。収集場所は不明である。

(5) 天草市枦宇土(はじうと) 町の井上善徳氏証言

終戦間際で米軍小型機が、枦宇土集落への伝単投下を目撃された。全て拾って役場に届けたが、さらに近隣の方の証言では、再度は役場から徹底して回収に訪れた。チラシには「チャーチル・米国人の顔写真」があった。証言から「写真2 トルーマン伝単」と想定される。





写真2 米大統領トルーマンの写真 が記された「日本国民諸氏 ツルー マンより一書を呈す」伝単 高谷和生所蔵 (6) 天草市本渡町の本多裕子氏証言

牛深町二浦の早浦湾で国民学校6年生の時 に、「米兵とロシア兵が握手して、日本列 島を軍靴で踏みつけている写真のビラを拾っ た」との証言を、長男の本多康司氏が伝え 聞いた。ソビエト連邦の日本参戦を伝える「感 激の握手」伝単と想定される。

(7) 天草市枦宇土町の中野武氏証言

前項の井上証言同様に終戦間際に、枦宇土

町大林集落の自宅前での証言である。 当日は真夏なのに、「雪が降ってきた」と 思った。両親からは「毒が塗ってあるので、 触るな」と厳命され、暫くは庭に放置してい た。その後国民学校教員から「全て拾って持 ってくるように」とも指示されという。その 後、伝単を読んだでだろう両親が、不可侵条 約を破って日本に参戦した「ソビエトは、信



写真3 上田穣一氏収集

「日本国民に告ぐ」伝単 ※同型品資料

用できない国だ」と言っていた。ここでの伝単は「感激の握手」伝単と想定される。

(8) 菊池市玉祥寺町の荒木久美子氏証言

※熊日令和5年8月15日投稿「降伏勧告するビラを拾った」

終戦の年、国民学校4年生の折に、菊池市 袈裟尾の農道で馬糞拾いをしていた際に、 限報の中、国民事代金中主の所に、報福市 表表定の展覧である。できたに際に、 限府方面から飛んできた飛行機から伝単が落とされた。近くの菊の城酒造に駐屯していた陸軍将校が飛んできて、田んぼに落ちた伝単を拾った。紙面には「無条件降伏」のことが書かれていた様だ。直ぐに全ての伝単は、警官により回収された。

(9) 玉名市向津留での森高清氏証言

終戦の直前で、玉名市菊池川左岸の向津留の河原「一本榎」で遊んでいたおりに、 空の**単独の双胴小型機 (P38)** から伝単が撒かれた。文字ばかりで、よくは内容が解 らなかった。

熊日様所蔵「伝単」の概要

- □写真4-上段は、「無条件降伏の意義」伝単(137-J-1)、横15cm×縦10c m、二色印刷。日本国民に向けての「長びく戦争の無意味さを伝え、日本国民の滅亡 を意味する」と記している。
- □写真4-下段は、「ポツダム宣言」伝単(152-J-1)、横20cm×縦12.5cm。 ポツダム宣言13項目を解説し、「合衆国等の各政府が、日本に対して布告した合同 最後通牒の要旨」と記されている。また、手書きで「本書ハ昭和二十年八月六・七日頃ヨリ敵機ヨリ投下シタルモナリ」「廣島ハ八月五日 長崎ハ八月八日 曝彈投下」 と添え書きされている。
- \Box 写真5は、「ポッダム宣言」伝単(152-J-1)である。先述のとおり、熊本市 内投下の資料と想定される熊日への持ち込み資料である。資料は折り目がつき、額縁 裏の押さえは「昭和63年9月8日熊日新聞」が使用されている。

- □現在確認できる熊本県内投下の「伝単」実物資料は、熊日新聞博物館所蔵「二種類・
- 三枚」である。 昭和二十年八月十二日熊本日日新聞に「熊本市に紙の爆弾 傳単の内容を喋れば厳罰敵の思想謀略」に記事が掲載され。熊本市内での伝単投下を、8月10日「第2回熊本大空襲」当日が「初投下」であると報じている。 □昭和□
- □早稲田大学の土屋玲子教授より提供いただきた資料2「米国公文書館所蔵 Nation **al Archive RG496, Entry441, Box2714**」によると、熊本市への投下は8月9日「137-J-1」が25,000枚、「152-J-1」が75,000枚、翌8月10 日「152-J-1」が85,000枚と215,000枚が記録されている。<mark>総数は実に「40万枚」</mark>である。

また、川尻・宇土・松橋にもB25機により「137-J-1」が「30,000枚」、

- 「152-J-1」「75,000枚」が投下された記録(資料2)が残されている。 □熊本での空襲実相を知るため、県全域での「紙の爆弾・伝単」資料検証が必要である。 <mark>県民に向けて「実物資料や新たな証言等の情報提供」等を求め、戦争実相の解明をさ</mark> らに進めたい。
- □天草市本渡歴史民俗資料館では、2023年夏の平和展「本渡・楠浦空襲と天草の軍人像」で、写真2・4等の各種「伝単」十七種を展示・紹介した。

□人吉・球磨地方、芦北地方への中国軍機による「伝単」投下については、地元市民団 体及び市町村教育委員会文化財部局等から情報を収集している。

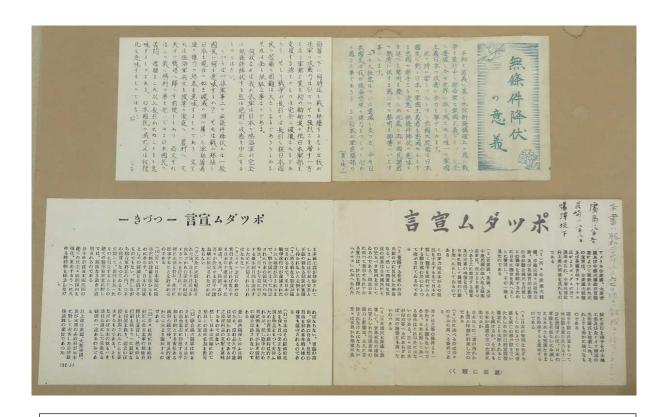


写真4 熊本で実際に投下された「伝単 二種」 両資料ともに右側が「現物」、左側が「複写」である。 上段①「無条件降伏の意義」伝単 下段②「ポツダム宣言」伝単 熊日新聞社新聞博物館所蔵



写真5 熊本で投下されたと思われる熊日持ち込みの「ポツダム宣言」伝単 熊日新聞社新聞博物館所蔵



資料1 昭和二十年八月十二日熊本日日 新聞「熊本市に紙の爆弾」 ※該当部分のみトリミング

	DECLASSII	RG 496 Entr	y 44/	reproduce
	By PT NARA Date	9/3/3 Box. 27/5	4	
-	By PI NARA Date	Ole-1-1		
	0			
	A	DVON. FAR EAST AIR FORGE		
		100 E		
LEAFLET	QUANTITY	TARGET	DATE	PLANE
129-J-1 144-J-1	200,000	Pukuoka, HONSHU	8-11-45 8-11-45	B-24 B-24
129-J-1 144-J-1	200,000	Kyoto, HONSHU	8-10-45 8-10-45	B-24 B-24
129-J-1 144-J-1	200,000	Ceaka, HONSHU	8-11-45 8-11-45	B-24 B-24
137-J-1 144-J-1	135,000	Chiran A/D area, KYUSHU	8-7-45 8-11-45	B-25 B-25
137-J-1	90,000	Communications on	8-8-45	B-25
144-J-1	165,000	east KYUSHU	8-11-45	B-25
137-J-1 152-J-1	360,000	Iwakuni, KYUSHU	8-9-45	B-24 B-24
129-J-1	70,000	Kagoshima, KYUSHU	8-7-45	B-24 B-24
129-J-1 137-J-1	200,000		8-6-45	B-25
137-J-1	25,000	Kumamoto, KYUSHU	8-9-45	B-25
152-J-1 152-J-1	75,000		8-9-45	B-25
152-J-1	85,000 215,000		8-10-45	B-25 B-24
152-J-1	15,000	Kurume Tosu, KYUSHU	8-11-45	A-26
137-J-1	30,000	Masubase, Kawashini,	The second	
152-1-1	75,000	KYUSHU.	8-9-45 8-9-45	B-25
129-J-1 144-J-1	60,000	Matsuyama, KYUSHU	8-8-45 8-11-45	B-24 B-24
118-J-1	165,000	Mayakanojo, KYUSHU	8-6-45	B-24
118-J-1 137-J-1	10,000		8-6-45	B-25
137-1-1	325,000		8-6-45	B-24 B-25
137-J-1	170,000	Omuta, KYUSHU		

資料 2 極東航空軍 リーフレット配布一覧 「熊本・松橋・川尻」が記載されている。 早稲田大学 土屋礼子氏提供

National Archive RG496, Entry441, Box2714 **国公文書館所蔵



- 連 絡 先

□くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 髙谷 和生

 $E \times - N$ takayanagi 912@yahoo. co. jp

HP URL https://www.kumamoto-senseki.net/